

# 1987年度★フリーハンデ決定

**4歳馬はサクラスターオーに高い評価で  
84%、マックスビコーティは61%。5歳  
以上はミホシンザン、ニッポータイオー  
を並べて83%。**

●1987年のフリーハンデは、美浦、栗東、本部の10人のハンデキャッパーが討議の末、4歳馬、5歳以上、3歳馬、短距離の4部門が別表のように決定した。

**4歳馬**  
「一冠馬」サクラスターの力を高く評価。  
マックスピューティは、  
メジロラモーヌより1kg落として61kg。

1 2回函館の900万クラスを例にと比較すると、4歳の勝ち馬は半数の4頭しかない。夏から冬にかけてのオーブンの勝ち馬にしても関東フロッグは昨年の半数の5頭だ。

小林 東高西低の中につつて昨年はメジロデュレンが菊花賞に勝ってなんとか西の面目を保つてくれたが、ことしもまた牡馬の三冠はすべて関東馬であった。マックスピューティがメジロラモース級の大活躍をしてくれたのがせめてもの救いで、三冠を逃したとはいっても牝馬の中ではこの馬の力が抜け出ている。

岡部 好位につけて抜け出すという正攻法でダービーを制したメリーナイスイイや、春先から秋のローズSまで「冠」を含め8連勝したマックスピューティの活躍もさることながら、ことしの4歳馬のハイライトは何といっても、6カ月

—— 4歳馬について ますことしの概況から話を進めていただきたい。  
岩澤 牝馬三冠メジロラモースに迫る力量のマックスビューティ、6ヵ月半の長期休養明けて菊花賞を制したサクランスターオー、有馬記念2着のエーリーヴィングエースなど4歳上位馬にかぎればことしのレベルは高かつたと思うが、全体の層は例年より薄い感じがする。その証拠に夏の混合戦になつてからの4歳勝ち馬がことしは極端に少ない。

月半という長期耐久競走のナンデをものともせず菊花賞を制したサクラスターオーダー。この3頭が暮れの有馬記念で落馬、惨敗、故障発生という三者三様の予期せぬ結果になってしまったので

●出席者  
○美浦トレーニング・センター  
岩澤弘文 岡部龍文、甲佐勇、滝澤勇、今泉俊彰  
○栗東トレーニング・センター  
小林茂、遠山駿六、吉田武徳、朝日真進  
●本部審判部  
柴田裕

り目にただ1頭抜け出した皐月賞、半年の長期休養明けていきなり勝った菊花賞を見るかぎり、この馬の潜在能力は相当なものがある。メリーナイスは皐月賞、菊花賞ともに着外だったがダービーは圧勝だった。少なくともサクラスターオーに次ぐ評価は必要だ。

今泉 鮎春先まではことしの4歳は粒が揃っていると思っていたが、いざ混合になると重賞勝ち馬だけをとつてみると昨年の3分の1というひじょうにさみしい結果になつた。サクラスターオーは有馬記念の故障で例年との比較がひじょうに難しくなつた。能力はミホシンザン級もしくはそれ以上だと思われるが、有馬記念の結果をどう捉えるかが一つのポイントになるだろう。

— 165 —

## '87年のフリーハンデ

### 4歳馬

64	④サクラスターイー メリーナイス ※マックスビューティ ゴールドシチー 市ユーワージームス ※タレンティードガール マティリアル サニースワロー
63	④タマモクロス モガミヤシマ レオテンザン
61	④抽※コーセイ 市マイネルダビテ クリロータリー
59	市スーパーファントム
58	④市※トップコート 二ホンピロマーチ ストロングレディー
56	④市※トチノルーラー バナレット ビュウーコウ エイシンテンペスト シルクマリア
55	④抽※スズラバン セントナダラ ダイカツケンザント ナカミジュラー
54	④市※ハセベルテックス ヒデリュウオーリー ホクトジョージ メグロアサヒ
53	④市※ヤマニアーデン ワンダーレジスト(計38頭)
52	

\*北馬

(父)内国産馬 抽せん馬

地公宮出身馬

市市場取引馬 外外国産馬

つてサクラスターイーが出走していないし、皐月賞、菊花賞はまったく競馬にならないので正直いって2頭の比較がしづらい。

岩澤 どんなに強い勝ち方をする馬でも展開のアヤで成績にばらつきがあるというのは、あると評価を下げられても仕方ないのでしょうか。

小林 しかしダービーは6馬身差の圧勝で勝っている。展開に注文がつくといつても能力がなければ2着以下をあれだけ引き離すことはできない。シリウスボリはダービーのレースぶりを評価してミホシンザンと1着の63にした。メリーナイスもシリウスシンボリと同等でいいのではないか。

岩澤 後半に比べ春のあの時期はサクラスターイー、メリーナイス以外の中間層のレベルがいま一つ低調だった。したがって大差勝ちしたといつても、それを大きく評価できない。

柴田 ただ、メリーナイスはセントライト記念でも強い勝ち方をしている。シリウスシンボリはダービー1戦のみで63に。メリーナイスは62に。か63に。かで意見が分かれるところだ。

甲佐 いや、マックスビューティとの比較もあるから、そう簡単に63にもできない。

柴田 では、メリーナイスのハンデを決める前に、マックスビューティの評価が大きなウエイトを占めるので、マックスビューティの評価をしたらどうか。

甲佐 昨年、メジロラモーネには牝馬最高の62を与えたがそれと同等の評価はちょっと無理だ。秋になつて力をつけたタレンティードガールにエリザベス女王杯であつさり差し切られたら、年間を通しての8連勝といつても取り巻きのメンバーは昨年のほうが強かつた。そのへんを加味すると1着の下の61

柴田 サクラスターイー、メリーナイスの能力は相当高いとみる。常磐支所の温泉療養もカムバックに大きく貢献しているが、6ヶ月半の休み明けていきなり三千斤を差し切るというの並の能力ではできない筈である。もし有馬記念でサクラスターイーが無事に走ついたら、あの位置取りからして楽に勝つていただろう。メリーナイスとしても能力を本当に發揮したのはダービーだけだ。ことしの有馬記念はダイナガリバーなど古馬の一線級が本調子を失いていたし、故障や落馬も重なつたので例年のような単純な比較はできない。

——では具体的な評価に移りたい。

柴田 サクラスターイーのトップは全員の一致するところなのでまずこの評価を定め、次にメリーナイス、マックスビューティ、ゴールドシチーを比較検討することにしよう。昨年のダイナガリバーはダービー、有馬記念に勝ち菊花賞2着の実績で64。一昨年のミホシンザンも皐月賞、菊花賞に勝つて有馬記念2着の実績で64。だが、サクラスターイーを果たしてこの2頭と同

等に位置づけていいだろうか。小林 有馬記念の故障をどう扱うかに

よつて決まると思うが、能力的にはダメなガリバー、ミホシンザンに何ら劣らない。6ヶ月半ものブランクをものとせず三千斤を克服し、しかも馬群を割つて抜け出す勝負根性はすばらしいの一語に尽きる。

甲佐 ダイナガリバーにしてもミホシンザンにしても秋緒戦のセントライト記念は負けている。にもかわらずサクラスターイーはぶつつけ本番であれだけの能力を出したのだから、実績以上に評価をしていいのではないか。

渡辺 有馬記念は途中故障を発生してレースができなかつたのだから、これによつて評価を落とす必要はないと思う。

吉田 ダイナガリバーの64は有馬記念を評価してのものだが、あのときの古馬はそうそうたるメンバーが揃つており、それに比べるとことしはかなり古馬の層が落ちる。やはり64が妥当な線ではないだろうか。

小林 同感だ。

柴田 では、サクラスターイーを64にする。次にメリーナイスの評価に移ろう。

岡部 ダービー馬がトップにランクさ

れていいのではないか。少なくともそれより下に置くことはない。

柴田 パーティーとしては一昨年によく似ている。ミホシンザンとサクラスターイーはそれぞれ皐月賞、菊花賞を勝ちダービーは故障で出走しなかつた。

柴田 ダービーに勝つたのがシリウスシンボリとメリーナイス、そして三冠とも出走し皐月賞、菊花賞と共に2着のスマ

ラスターイーを果たしてこの2頭と同

ホシンザンも皐月賞、菊花賞に勝つて有馬記念2着の実績で64。だが、サクラスターイーを果たしてこの2頭と同

等に位置づけていいだろうか。同じだ。ミホシンザンの皐月賞、菊花賞はどちらも馬記念の故障をどう扱うかに

賞の勝ち方と比べたばかり、サクラス

ウスシンボリはダービーのレースぶりを評価してミホシンザンと1着の63にした。メリーナイスもシリウスシンボリと同等でいいのではないか。

岩澤 後半に比べ春のあの時期はサクラスターイー、メリーナイス以外の中間層のレベルがいま一つ低調だった。したがって大差勝ちしたといつても、それを大きく評価できない。

が妥当だと思われる。

今泉 私も61<sup>\*</sup>に賛成だ。

柴田 全員異論はないようなのでマツクスピーティを61<sup>\*</sup>にする。

小林 マツクスピーティの61<sup>\*</sup>に異論はないが、さりとてメリーナイスが

サクラスターOーから2<sup>\*</sup>。下の62<sup>\*</sup>では評価が低すぎるのではないか。ダービー馬で62<sup>\*</sup>というと並の馬扱いとなってしまう。

柴田 では、ダービーの鮮やかな勝ち方、セントライト記念の完勝は評価できる。メリーナイスを63<sup>\*</sup>に決定する。

あとに続く馬は牡牝分けて話し合おう。まず牡馬からお願いしたい。

渡辺 メリーナイスの次にランクされるのはゴールドシチーとユーワジエームスだろうが、この2頭は互角と思われる。ゴールドシチーは皐月賞と菊花賞をそれぞれ2着、一方のユーワジエームスはニュージーランドトロフィー勝ちと有馬記念2着だから実績的には五分と五分だ。

滝澤 ゴールドシチーの皐月賞は団子の中の2着だからあまり過大評価はできない。

今泉 しかし菊花賞はあわやと思わせる惜しい2着だった。4歳時の重賞勝ちがないといつても、年間を通してクラシックを走って堅実な成績を残したわけだからユーワジエームスと並べていいだろう。

岡部 2頭を並べることについては異論はない。ミスター・シービーのときのメジロモンスニーと比べるとこの2頭の力は落ちる。やっぱり59<sup>\*</sup>が妥当なところだ。

朝日 昨年のアサヒエンペラーがダービー、皐月賞とともに3着で59<sup>\*</sup>、一昨年のスクラムダイナがダービー3着、

論はさういふ。さりとてメリーナイスが

サクラスターOーから2<sup>\*</sup>。下の62<sup>\*</sup>では評価が低すぎるのではないか。ダービー馬で62<sup>\*</sup>というと並の馬扱いとなってしまう。

柴田 では、ダービーの鮮やかな勝ち方、セントライト記念の完勝は評価できる。メリーナイスを63<sup>\*</sup>に決定する。

あとに続く馬は牡牝分けて話し合おう。まず牡馬からお願いしたい。

渡辺 メリーナイスの次にランクされるのはゴールドシチーとユーワジエームスだろうが、この2頭は互角と思われる。ゴールドシチーは皐月賞と菊花

賞をそれぞれ2着、一方のユーワジエームスはニュージーランドトロフィー勝ちと有馬記念2着だから実績的には五分と五分だ。

滝澤 ゴールドシチーの皐月賞は団子の中の2着だからあまり過大評価はできない。

今泉 しかし菊花賞はあわやと思わせる惜しい2着だった。4歳時の重賞勝ちがないといつても、年間を通してクラシックを走って堅実な成績を残したわけだからユーワジエームスと並べていいだろう。

岡部 2頭を並べることについては異論はない。ミスター・シービーのときのメジロモンスニーと比べるとこの2頭の力は落ちる。やっぱり59<sup>\*</sup>が妥当なところだ。

朝日 昨年のアサヒエンペラーがダービー、皐月賞とともに3着で59<sup>\*</sup>、一昨年のスクラムダイナがダービー3着、

論はさういふ。さりとてメリーナイスが

比較からもゴールドシチーとユーワジエームスは59<sup>\*</sup>で妥当と思われる。

柴田 ではこの2頭は59<sup>\*</sup>。

吉田 その下のグループはマティリアル、サニースワロー、レオテンザン、モガミヤシマ、タマモクロスだが、この中ではマティリアルをやはり上位に置くべきだろう。

甲佐 同感だ。マティリアルのスプリングSの末脚はいまでも脳裏に焼きついている。皐月賞も直線だけで3着に追い上げた。マティリアルが58<sup>\*</sup>で他の4頭は56<sup>\*</sup>でどうか。

滝澤 賛成だ。

柴田 では整理したい。マティリアル58<sup>\*</sup>。56<sup>\*</sup>が4頭でサニースワロー、レオテンザン、モガミヤシマ、タマモクロス。

岩澤 55<sup>\*</sup>でマイネルダビテ。54<sup>\*</sup>でスープアーフアントム、ニホンピロマー

チの2頭。53<sup>\*</sup>ではビュウーコウ、トルフアの4頭。

岡部 52<sup>\*</sup>ではメグロアサヒ、ニシノミラ、セントナダラ、ホクトジョー

ジ、スズラバ、ヒデリュウオト、エイシンテンペスト、ダイナチャヨイス、ヤマニンアーデン、ダイカツケンザンの10頭をいれておきたい。

——では4歳牡馬の検討に移るが、先ほどマツクスピーティを61<sup>\*</sup>に決定したので、タレンティドガール以下

の牝馬について話を進めたい。

朝日 春は、一流牡馬が実力どおりの競馬をしてくれたが、秋になつてミホ

シンザン、スズパレード、ニシノライ

デンらの離脱が相次ぎ、ジャパンCの日本代表馬が例年になく小粒になつてしまつたのはひじょうに残念だ。

今泉 そんな中で年間通して活躍し秋の天皇賞に勝ったニッポーテイオー、

ジャパンCで3着に頑張ったダイナアクトレスは大いに評価したい。

吉田 ことしも関東馬が上位を占めていたが、そうした中で関西馬も安田記念のフレッシュボイス、有馬記念のメジロデュレンに代表されるように力があつたと思う。

滝澤 秋口から上馬が手薄になつたが、やや上向いてきたことは一つの収穫だ

いたが、そうした中で関西馬も安田記念のフレッシュボイス、有馬記念のメジロデュレンに代表されるように力があつたと思う。

今泉 タレンティドガールをマツクスピーティの何<sup>\*</sup>。下に置くべきだろう。

——では4歳牝馬の検討に移るが、先ほどマツクスピーティを61<sup>\*</sup>に決

定したので、タレンティドガール以下

の牝馬について話を進めたい。

今泉 タレンティドガールをマツクスピーティの何<sup>\*</sup>。下に置くべきだろう。

柴田 オーケスは3着だが夏に成長し

エリザベス女王杯でマツクスピーティの三冠を阻止した末脚は鋭かつた。

王杯オータムHをレコード勝ちしジャパンCで3着になつたダイナアクトレ

あつたので58<sup>\*</sup>が妥当な線だ。

柴田 全員異論はないようなのでタレンティドガールは58<sup>\*</sup>に決める。

朝日 その下のグループはコーセイ、クリロータリー、トップコート、スト

ロンゲレディーだが、この中ではコーセイを1<sup>\*</sup>上に置きたい。

柴田 一年前のナカミアンゼリカがオーネクス2着、エリザベス女王杯3着で55<sup>\*</sup>だった。コーセイは桜花賞トライアルを勝つて本番が2着、オーネクスは4着だが力はある。コーセイ55<sup>\*</sup>で他

ロングレディーだが、この中ではコーセイを1<sup>\*</sup>上に置きたい。

柴田 一年前のナカミアンゼリカがオーネクス2着、エリザベス女王杯3着で55<sup>\*</sup>だった。コーセイは桜花賞トライアルを勝つて本番が2着、オーネクスは4着だが力はある。コーセイ55<sup>\*</sup>で他

ロングレディーだが、この中ではコーセイを1<sup>\*</sup>上に置きたい。

柴田 一年前のナカミアンゼリカがオーネクス2着、エリザベス女王杯3着で55<sup>\*</sup>だった。コーセイは桜花賞トライアルを勝つて本番が2着、オーネクスは4着だが力はある。コーセイ55<sup>\*</sup>で他

ロングレディーだが、この中ではコーセイを1<sup>\*</sup>上に置きたい。

柴田 では整理しよう。コーセイが55<sup>\*</sup>、54<sup>\*</sup>でトップコート、クリロータリー、53<sup>\*</sup>でストロンゲンレディー。

甲佐 52<sup>\*</sup>ではナカミアンゼリカ、ダ

イナシルエット、シルクマリア、ワンダーレジスト、ハッピーサンライズ、ハセベルテックスの6頭。

の3頭が54<sup>\*</sup>でどうだろう。

今泉 トップコート、クリロータリー

は54<sup>\*</sup>としてもストロンゲンレディーは54<sup>\*</sup>と下ではないか。

渡辺 同感だ。

柴田 では整理しよう。コーセイが55<sup>\*</sup>、54<sup>\*</sup>でトップコート、クリロータリー、53<sup>\*</sup>でストロンゲンレディー。

甲佐 52<sup>\*</sup>ではナカミアンゼリカ、ダ

イナシルエット、シルクマリア、ワン

ダーレジスト、ハッピーサンライズ、

ハセベルテックスの6頭。

'87年のフリーハンデ

5歳以上

63	ニッポーテイオー
61	⑩ミホシンザン
60	スズパレード
59	メジロデュレン
58	*ダイナクトレス
57	⑩ニシノライデン
56	フレッシュボイス
55	クシロキング
54	アサヒエンペラー
53	⑩ウインドストース
52	スダホーク
	*ダイナフェアリー
	⑩ライフタテヤマ
	ランドヒリュウ
	レジェンドティオー
	カシマウイング
	サクラサニーオー
	⑩シンチェスト
	⑩ハシケンエルド
	*ポットテスコレディ
	マウントニゾン
	*トウカイローマン
	⑩ドウカンヤシマ
	トウショウラオ
	アサカツービート
	⑩スピードヒーロー
	地*トチノニシキ
	⑩ブレジデントシチー
	ミスター・ブランディ
	父地ゴルデンビューチ
	リキサンパワー
	*カツダイナミック
	クラウンエクシード
	*ショノリーガル
	スズタカヒーロー
	*セッテジュノ
	*ダイナシユート
	ドルササポート
	⑩ノックアウト
	父ビーター・ホーラー
	フォスター・ムサシ
	*マヤノジョウオ
	父市マルカセイコウ
	父抽*ユウミロク
	(計44頭)

ニッポーテイオー、スズパレード、メジロデュレンの比較検討から始めることにしよう。

滝澤 ニッポーテイオーは秋の天皇賞では逃げて庄勝し、マイルチャンピオンシップでは好位から差す強い競馬をしたが、春の安田記念はフレッシュボイスに、宝塚記念はスズパレードに足元をよくわれている。一方、ミホシン

ザンはわずか3戦ながら春の天皇賞を含め3戦ともきつり勝つた。その勝ち方には4歳時ほどの迫力こそなかつたが、三つとも確実に勝つことは強さの裏付けとみる。その点で春二つのG1を落としたニッポーテイオーは一番手に下げたい。

渡辺 スズパレードとメジロデュレン

は同等に並べられるだろうか。

滝澤 いや、これは明らかにスズパレードのほうが上だろう。中山記念の勝ちくらがあるし、宝塚記念ではニッポーテイオーを破っている。それにメジロデュレンが有馬記念に勝つたといつても、有力古馬の不調や離脱、サクラ

スターの故障やメリーナイスの落馬という4歳有力馬のアクシデントなど多分に恵まれたものがあった。

岩澤 春の天皇賞はニシノライデンの失格はあつたが、ニッポーテイオーが勝った秋の天皇賞はちょっとメンバーが弱かった。ミホシンザン上位に異論はない。

岡部 同感だ。AJC杯はかなりレベルの高いメンバーだったが、それを横綱相撲で勝つことも評価したい。

柴田 いや、ミホシンザンとニッポーテイオーは並べていいのではないか。

ニッポーテイオーの天性の能力は秋になつて天皇賞とマイルチャンピオンシップで一気に開花したとみる。メンバー

一が手薄だったといつても時計は優秀だし、天皇賞でハイペースの逃げをうつて最後に突き放し、マイルチャンピオンシップで好位から差しきつた競馬

は大いに評価すべきだと思う。

滝澤 ニッポーテイオーのような競馬は常にターゲットにされ、最後に何かに差し切られる宿命を背負っている。

春の安田記念がそのいい例だが、いく

ら秋に素質が開花したといつても、た

か。事実、春と秋では馬もレース運びもがらりと変わった。未完成期の春の

取りこぼしをマイナス材料にニッポー

ティオーをミホシンザンより下に評価

するのは酷な気がする。

柴田 ミホシンザンとニッポーテイオーは同等評価が妥当だろう。

渡辺 昨年のサクラユタカオーが63°

だから、比較からいって64°はちよつ

と苦しいかもしれない。63°の並びが

ちょうどいいところではないか。

滝澤 2頭を並べるなら63°が妥当なところだ。

— 168 —

今泉 昨年のギャロップダイナが安田

記念、東京新聞杯に勝つて有馬記念2

着で62°だ。スズパレードはこれと同

年齢になると春から秋にかけて成長

する度合は小さい。しかしニッポーテ

イオーの5歳という年齢は、馬によつ

て差はあるが春から秋にかけてまだま

だ大きく成長する余地を残している。

したがつて春のGI取りこぼしは成長

途上のもので、秋のGI快勝は充実、

完成した結果と考えていいのではない

花賞を勝つてゐるわけだから、評価を

柴田 それではまずミホシンザンとニ

下げる必要はないと思われる。

柴田 ではスズパレード、メジロデュレンを61%で並べよう。

朝日 この下のグループは牡馬ではフーレッシュ、ボイス、ニシノライデン、ウインドストース、スダホーク、クシロキング、アサヒエンペラー、牝馬ではダイナアクトレスといったところか。

柴田 ここらでダイナアクトレスを決めておこう。毎日王冠ではニッポーティオ、ウインドストースらを破つているし、ハイレベルの招待馬が揃つたジャパンCが日本馬の中で最先着の3着だったことを加味すれば、60%をつけてもいいのではないかろうか。

渡辺 賛成だ。京王杯オータムHは日本タイレコードで走っているし、ジャパンCの好成績は大きな評価を与えていいと思う。

今泉 インターグロリア、プリティキヤストといつた過去の実力牝馬と並べても遜色がないだろう。60%に賛成だ。

柴田 では、ダイナアクトレスは60%に決定する。

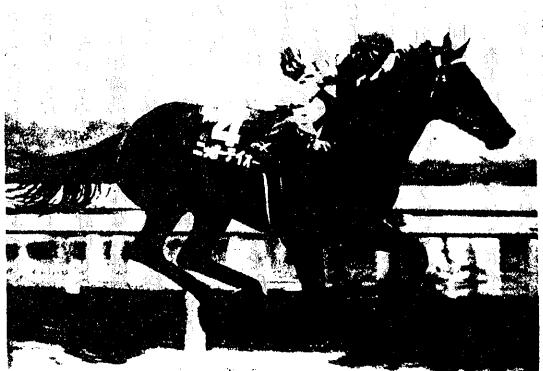
岩澤 牡馬では安田記念に勝つたフレッシュボイスが文句なく60%だが、ニシノライデン、クシロキングを同等に並べることができるだろうか。

岡部 クシロキングは'87年は未勝利だからニシノライデンよりは一つ落ちる。ニシノライデンは60%。としてもクシロキングは59%、スマホークが58%。だろう。

朝日 ウインドストース、アサヒエンペラーをどうする。

岡部 ウインドストースは毎日王冠で2着だったが、ダイナアクトレス、ツボーティオを相手にあわやの見せ場をつくった。一方、アサヒエンペラーハは未勝利で実績は天皇賞2着だけだが評価には値する。この2頭は58%だ

▲ニッポーティオ



イオ、ランドヒリュウ、牝馬のダイナファアリー。

柴田 ハシケンエルドの有馬記念3着はあるついどの評価が必要だが、果たして何%が妥当だろう。

小林 56%。いいのではないか。

今泉 賛成だ。その他の56%では、マウントニゾン、カシマウイング、サクラサニーオー、シンチエスト、牝馬でも

ポットテスコレディ。

吉田 55%54%では、55%がトウショウ

ウレオ、ドウカンヤシマ、牝馬でトウ

カイローマン。54%がアサカツービー

ト、ミスター・ブランデイ、ブレジデン

トシチー、スピードヒーロー、牝馬で

トシチー、スピードヒーロー、ピーターホ

## 短距離部門 この部門でもトップのは、ニッポーティオは、64%。

まのままで短距離路線はなかなか定着しない。

——では具体的な評価に移りたい。

柴田 昨年のニホンピロウイナーには最上限と思われる66%がついている

ので、これを目安にニッポーティオのハンデを決めることにしよう。

柴田 現在の短距離路線の最高峰は春

が安田記念、秋がマイルチャンピオン

シップ共に千六百㍍の競馬である。マイ

イルをこなせる馬というの、日本の競馬ではニホンピロウイナー、ニッポーティオに代表されるとおり一千六百㍍までの距離においてはパ

まではこなせるので総合評価の対象となり、ひじょうに線引きがむずかしい。

岩澤 ことしからスプリンタースをGIIに格上げし、従来よりなお一層の

短距離路線の確立がなされたが、まだ

まだ全般的に層が薄い。この層を厚くするには千六百㍍の短距離に格、賞金ともに最高のG1レースを設けるべきだ

トチノニシキ。

滝澤 53%は2頭でリキサンパワーとゴルデンビューチ。

柴田 エビスジョウジ、キングフロー

リック、アーランドゴッテス、ラブシックブルースは短距離部門のほうで評価する。

甲佐 52%に牝馬のダイナシユート、カツダイナミック、セッテジユーノ、ユウミロク、シヨノ

マヤノジョウオ、エウミロク、シヨノ

リーガルの6頭。牡馬ではノックアウト、クラウンエクシード、マルカセイ

コウ、ドルサスポート、フォスター

サシ、スズタカヒーロー、ピーターホ

ラー。

た。が、ニッポーテイオーのばあい短距離馬というより中距離馬という印象

が強いだけに総合評価との差をあまりつけられない。

柴田 昨年のギャロップダイナには63<sup>\*</sup>がついている。ニッポーテイオーがそれからたつた一つ上<sup>\*</sup>というのはちょっとかわいそうな気がする。

甲佐 ギヤロップダイナと比較すればたしかにそうだが、かといって65<sup>\*</sup>ではニホンピロウイナーとの差が1<sup>\*</sup>になつて、短距離パーエクトの動草に傷がつく。

柴田 パーエクトといつても、あの年のメンバーは弱い。

今泉 ニッポーテイオーはパーエクトを逃したが、安田記念の2着は完敗ではない。勝ちに行つたところをフレッシュボイスの捨て身の奇襲にやられた。安田記念を落としたことで2<sup>\*</sup>差というのは厳しすぎる。

小林 この路線にはG.I.のマイルが二つあってそれに関連する競走が五つあるが、そのうちのビッグタイトルを落としたというのは致命的だ。さらに千八百の毎日王冠も3着に負けている。それを考えればニホンピロウイナーから1<sup>\*</sup>下<sup>\*</sup>というのは評価しすぎだ。マイルのG.I.二つを勝つてこそニホンピロウイナーと比較される権利がある。

柴田 ニッポーテイオーは秋の天皇賞に勝つたが、ニホンピロウイナーは3着に負けている。

岡部 その比較はおかしい。ここはあくまでも千六百以下の評価をするのだから、一千の天皇賞は比較の対象にできない。

吉田 この2頭は能力的にはそう差はないと思われる。しかしメンバーがどうであれ内容がどうであれ、この部門のビッグタイトルのうちの一つを落と

朝日 総合部門で外したセントシーザーをこのあたりで評価したい。

吉田 重賞勝ちは阪急杯とCBC賞の二つあるし、メンバーが落ちていたとはいえマイルチャンピオンシップの2着も評価の対象になる。距離適性も加味して59<sup>\*</sup>でどうか。

小林 いいだろう。

柴田 ではセントシーザーは59<sup>\*</sup>。

岩澤 その下のグループではウインドストース、コンサートマスター、ミスター・ボーリー、ポットテスコレディ、キングフローリック

リードトリブル

(計20頭)

## '87年のフリーハンデ 短距離(1600m以下)4歳以上

64	ニッポーテイオー
61	フレッシュボイス
60	※ダイナアクトレス
59	セントシーザー
58	④ウインドストース
57	コンサートマスター
56	※ポットテスコレディ
54	地ミスター・ボーリー
53	キングフローリック
52	リードトリブル
市	※アイランドゴッテス
	アサクサエリート
	エビスジョウジ
	※ラブシックブルース
	※イブキバレリーナ
	キリノトウコウ
	地※グレース・シラオキ
	※クールハート
	※シマノファイン
	※マルブツロンリー

渡辺 総合評価のところニッポーテイオーは、短距離のスペシャリストといふより中距離のスペシャリストといふことで意見は一致しそれなりの評価を与えたのだから、ここでは64<sup>\*</sup>でもかまわないのではないか。

滝澤 総合評価より短距離評価が上になるということは、この馬は短距離のほうがより能力を發揮するということを表示している。ニホンピロウイナーは総合評価が64<sup>\*</sup>で短距離評価が66<sup>\*</sup>であるということは、この馬は短距離の勝つただけだが、マイルチャンピオンシップに比べるとはるかにメンバーは強かつた。このときにはダイナアクトレス、ニッポーテイオーを負かしていられるのだからそれなりの評価は必要だ。

小林 昨年のギャロップダイナが63<sup>\*</sup>だ。2頭を比較してその差が1<sup>\*</sup>といふのはどうだろう。2<sup>\*</sup>下の61<sup>\*</sup>が妥当と思われる。

柴田 今年のギャロップダイナが63<sup>\*</sup>だ。2頭を比較してその差が1<sup>\*</sup>といふのはどうだろう。2<sup>\*</sup>下の61<sup>\*</sup>が妥当だ。

小林 昨年のギャロップダイナが63<sup>\*</sup>だ。2頭を比較してその差が1<sup>\*</sup>といふのはどうだろう。2<sup>\*</sup>下の61<sup>\*</sup>が妥当だ。

柴田 総合評価ではフレッシュボイスとダイナアクトレスを60<sup>\*</sup>のイーブンにしたが、短距離も2頭並べて61<sup>\*</sup>でどうだろうか。

滝澤 フレッシュボイスは安田記念に勝つて61<sup>\*</sup>。としても、ダイナアクトレスはそのレースで負けている。それにジャパンC3着の実績が加味されて60<sup>\*</sup>の大台に乗ったわけだから、短距離部門でさらに上乗せして61<sup>\*</sup>にする必要はない。

岡部 同感だ。京王杯オータムHの世界タイレコードは評価してもダイナアクトレスは60<sup>\*</sup>だろう。

柴田 ではフレッシュボイスを61<sup>\*</sup>、ダイナアクトレスを60<sup>\*</sup>に決める。

小林 同感だ。

柴田 二番手にはフレッシュボイス、ダイナアクトレスがくるが、ニッポーテイオーは59<sup>\*</sup>でどうか。

渡辺 コンサートマスターのマイラー

ズCはいくぶん展開に恵まれたところがあつた。セントシーザーよりも2<sup>\*</sup>は下だろう。

今泉 コンサートマスター、ミスター・ボーリー、牝馬でボットテスコレディが57<sup>\*</sup>、キングフローリックが一つ下の56<sup>\*</sup>というところだ。

甲佐 ダイナアクトレスは短距離評価から外すとして、ウインドストースはどうしよう。

柴田 マイルのダービー卿チャレンジトロフィーを勝っているのだから入れるべきだろう。G.I.とはいえる競馬はひじょうに強い勝ち方だった。総合評価と同じ58<sup>\*</sup>は与えたい。

今泉 昨年のスズパレードがあれだけの斤量を背負つて58<sup>\*</sup>だ。それから比較するとつけすぎではないか。

甲佐 しかし競馬の内容じたいはそう遜色ない。ズズパレードと同等で問題はないと思われる。

柴田 では整理したい。ウインドストース58<sup>\*</sup>、コンサートマスター、ボットテスコレディ、ミスター・ボーリーの3頭が57<sup>\*</sup>、キングフローリックを56<sup>\*</sup>にする。

滝澤 54<sup>\*</sup>~53<sup>\*</sup>では、リードトリブル

が54\*。エビスジョウジ、アイランドゴッテス、ラブシックブルース、アサクサエリートの4頭が53\*だ。

朝日 52\*はクールハート、グレース

## 3歳馬 サッカーボーイは久しぶりの関西の大物。 あのテンポイントと同等の評価で56キロ。

——最後に、3歳馬の総体的評価に移りたい。

柴田 関東は質量ともに豊富な年だったが残念ながらリタイヤが相次いだ。新潟3歳Sをレコード勝ちしたグリンモリー、オープン特別のアイビースをレコードで勝ち3戦3勝のスイートローリアンス、そのほかマイネルロジック、マイネルグラウベン、オラクルアスカ、オンワードナンシー、メジロジャネット……など一連の上位馬が故障で休養し、朝日杯3歳Sは6頭立てという例年になくさみしい少頭数の競馬になってしまった。朝日杯3歳S出走組とりタイヤ組をどう比較するか、ことしは判断がむずかしい。

吉田 関西馬もディクターランド、クララトウショウウなどの上位馬が故障で戦列を離れたが、サッカーボーイが近い活躍を見せてくれたのは大きな収穫だった。函館の新馬が9馬身、京都のオープン特別が10馬身、阪神3歳Sが8馬身の圧勝で時計も優秀だ。久々に関西から大物が出たという感じで、東西を通じてもこの馬が3歳ナンバーワンだろう。

渡辺 この馬はテンポイント級の大物と見ている。例年のトップはだいたい54\*だが、サッカーボーイには56\*の評価を与えてよい。

滝澤 過去56\*をつけた馬ではバンブトンコート、ギャラントダンサーがい

シラオキ、イブキバレイーナ、シマノファイン、マルブツロンリー、キリノトウコウの6頭。

滝澤 早くから活躍する馬はふつう早いことが多いため、サッカーボーイはどんどん体重が増えているのでその心配はないだろう。戦ったメンバーはたしかに弱いが、勝ちっぷり、時計面、着差を加味すれば56\*を与えてよいと思う。

小林 何年ぶりかに出た関西の大物、と自信を持って言える。

小林 では、サッカーボーイは56\*にしよう。

渡辺 関西はサッカーボーイが1頭抜けているだけで、あとに続く層は例年どおり薄い。一二三番手グループは関東馬が中心になる。

柴田 では、サクランチヨノオーダーが55\*、スイートローリアンスとグリンモリーを並べて54\*にする。

柴田 では整理しよう。サクランチヨノオーダーが55\*、スイートローリアンスとグリンモリーを並べて54\*にする。

今泉 シノクロスは重賞を二つ勝っているが、スイートローリアンスとの比較で54\*に並べるのは無理か。

柴田 能力はスイートローリアンスのはうが上とみる。シノクロスは53\*だ。

小林 同感だ。重賞を二つ勝っているがメンバーが弱かつたし、スイートローリアンスには完敗しているのだから53\*が妥当だろう。

吉田 関西では、ダイタクロンシャンとディクターランドが53\*だ。

甲佐 函館3歳Sを勝った兄のサクラトウユウは55\*だった。比較からサクラチヨノオーダーも55\*でいいと思う。

岩澤 朝日杯3歳Sは並んで抜かせない素晴らしい根性を見せたが、前走のいちよう特別でマイネルロジックに負けていることから見て55\*というのは評価しきりではないか。

柴田 スイートローリアンスは重賞実績がないまま故障してしまったが、3戦とも完勝だった。オープン特別のアイビースはレコードで勝っているし、サッカーボーイと同じく着差、勝ちっぷり、時計面とすべて申し分ない。無事なら重賞の一つや二つ勝っていたはずだ。3歳馬については実績と素質の両面から評価するのでスイートローリアンスには54\*をつけたい。それから比較するとサクラチヨノオーダーと同じ54\*に与えるべきではない。やはり55\*を与えるべき

滝澤 それでいいだろう。

岩澤 グリンモリーはどうする。

岡部 新潟3歳Sは相手がアイノマーだけだつたとはいえ勝ち方が圧巻だった。そのあと故障でリタイヤしたが、あるていど高い評価をしなければならない。少なくとも54\*は与えたい。

柴田 では整理しよう。サクランチヨノオーダーが55\*、スイートローリアンスとグリンモリーを並べて54\*にする。

柴田 では整理しよう。サクランチヨノオーダーが55\*、スイートローリアンスとグリンモリーを並べて54\*にする。

今泉 シノクロスは重賞を二つ勝っているが、スイートローリアンスとの比較で54\*に並べるのは無理か。

柴田 能力はスイートローリアンスのはうが上とみる。シノクロスは53\*だ。

小林 同感だ。重賞を二つ勝っているがメンバーが弱かつたし、スイートローリアンスには完敗しているのだから53\*が妥当だろう。

吉田 関西では、ダイタクロンシャンとディクターランドが53\*だ。

甲佐 関東でシノクロス以外の53\*はコクサイトリップル、モガミナイン、ツジノショウウゲン。

柴田 あとは将来性も加味して、52\*にランクできる馬をピックアップしてみたい。

朝日 関西ではエイシンヒエン、クララトウショウウ、プリンセススキーラー、オペベスト、シリーリバティー、ニルカブトサン、ボットナボレオン、シノカブトサン、ファンドリデクター、ラガーブラックの9頭。

柴田 関東ではトウショウウマリオ、アイノマーチ、イサオチャイルド、マイネルロジック、カゲマル、ジンデンボーリーの6頭まで。

柴田 以下の馬については、別表(116)ページを参考にしていただきたい。

'87 年 の フ リ ー ハ ン テ

3歳(東)

55	㊂サクラチヨノオー (マルゼンスキーサクラセダン)
54	㊂グリンモリー (マルゼンスキーオオシマリアナ)
	※スイートローザンヌ (モガミ=スイートアミアン)
53	コクサイトリブル (ノーアテンション=カラフルメイト)
	㊂シノクロス (シーピーコロス=シムフラワー)
	ツジノショウグン (ターグワイズ=マロンブレス)
	モガミナイン (ノーアテンションキャッシュボア)
52	※アイノマーク (ゴーマーチンダ=アイノエンゼル)
	イサオチャイルド (ノーザリー=ハシノシゲー)
	㊂カゲマル (モガミ=スイートペルン)
	ジンデンボーイ (ノーザリー=ロッヂテスコ)
	トウショウマリオ (ノノアルコ=ソシアルトウショウ)
51	㊂マイネルロジック (パンプアトラス=ヒタカエイリュウ)
	㊂アイビートウコウ (ホスピタリティ=トウコウアドロ)
	オラクルアスカ (バー=ソロソ=ティエンジェル)
	※オンワードナンシー (ハードドービート=パルフェ)
	㊂カシママイテ (サンシャインボーイ=サウンドカグラ)
	㊂キコウシ (ホワイトフォンテン=イーグランド)
	㊂ジムクイン (トウショウルチュー=ジムダッシュ)
	※スカーレットリボン (ノーザンテースト=スカーレットイング)
	スポーツイベント (ノーザンテースト=ユースポート)
	スーパーハイウェイ (ノーザンテースト=ロードマップ)
50	㊂タイガーローザ (カネミノブ=クインテッソ)
	ピンゴユメタ (コインドシルバー=ユコ)
	マイネルグラウベン (コインドシルバー=メリーブラット)
	㊂マツジャガー (サンシャインボーイ=マツロック)
	ミュゲロワイヤル (リアルシャダイ=ベニスラン)
	㊂ミヨノスピード (ファイブダンサー=ミヨノニシキ)
	※メジロジャネット (リアルシャダイ=メジロエニフ)
	㊂アドバンスモア (サクラシングキ=メルシーブルー)
	アラワシジョー (ノノアルコ=コユキジョー)
	㊂キリセオリー (サラ系キノダイオーバンベリードーター)
	グランドキャニオン (ディクタス=サクサキャニー)
	※クリノジョオー (ロイヤルスキーカ=ファットウイーゼル)
	クリノティオー (モバリッズ=クリノアイバー)
	※クールテースト (ノーザンテースト=サクラクール)
	㊂コバノシルベスター (トウショウルチュー=アマツオーネ)
	㊂サンキョウセツツ (インターメソ=ネバーシンザン)
	※スヌープトウショウ (ハードドービート=エイティトウショウ)
	㊂ダイワダグラス (マルゼンスキーカ=ダイワダンサー)
	※タチバナビゼン (ゲンサーズイメージ=アクロスザスカイ)
	テンシンリュウエン (リアルシャダイ=ウインナワルツ)
	ナイルグリーン (リアルシャダイ=ダイナリリー)
	※ノーシークリエット (バー=ソロ=ホースメンテスコ)
	フジミシシリー (キングオブダービー=ハピタットクイーン)
	㊂ホリバンダイ (マルゼンスキーカ=シライクトイン)
	ホーブュアホーブ (ホーブリーオン=ヒバコ)
	㊂モガミチャンピオン (トウショウルチュー=イーストサイド)
	モガミファニー (キングオブダービー=ティギニー)
	㊂ラブリーエブソム (アスワン=エブソムレディー)
	㊂リキサンソロン (ピットカーン=スカッシュソロン)
	リンドホシ (サンディクリーク=ハセカツマ)

(計52頭)

3歳(西)

56	サッカーボーイ (デ=クタス=ダイナサノシニ)
55	㊂市ダイタクロンシャン (ダイタクチカラ=ダテロンシャン)
	ディクターランド (ディクタス=ダイナランド)
	エイシンヒエン (ミルジョージ=センターガーテン)
52	㊂クララトウショウ (トウショウルチュー=コーニストウショウ)
	スリーリバティー (ロジンスキーソ=スリーリオン)
	㊂スルーオベスト (タイエム=ベルダンサー)
	㊂ニシノカブトザン (ホウシュエイト=オシリーシロー)
51	市ファンドリデクター (ノーザンティクティーター=ムーンストローク)
	※プリンセススキー (ロイヤルスキーカ=ギフトブリンセス)
	ポットナボレオン (ノーザンディクティーター=ポットペール)
	ラガーブラック (スティールハート=サンムーティエ)
	※アンブローシア (ノーザンテースト=シャダイアンブリー)
	センシュウルル (ノーザリー=ササフォルテ)
	※タイシンシア (ターゴワイズ=タイシオリ)
	※タマモスマート (トレボロ=スマートアロー)
	※チカノパワー (ナイスタンサー=シュツラン)
	市バンダムテスコ (テスコボイ=マルゼンムーティエ)
	㊂フリークギャル (ボルグスキーソ=トーションシルバー)
	㊂マチカネイトハン (アローエクスプレス=ネバージョー)
	市マルシゲアトラス (パンプアトラス=ニホンヒロモンロー)
	マルブツゲット (ファーバージヤマトウメ)
	ミスタークレノン (ミルジョージ=ナオユキ)
	メジロワース (モガミ=キャットロンシャン)
50	市ラッキーミル (ミルジョージ=コトブキアリス)
	アグネスカノーバ (スティールハート=クラウンシャトー)
	㊂アグネスクローネ (アグネスベンチャーアグネスレディー)
	※インターネット (マルゼンスキーカ=ヒダカセッション)
	ウエルネス (リアルシャダイ=ダイナサシー)
	抽ウサピュー (マラケート=ホワイトパンジー)
	エーコーシーザー (コインドシルバー=ブレスアゲン)
	市ゲイリーサンダー (モニングフローリック=ゲイリースター)
	※サンエムプライズ (ノーザンティクティーター=サンエムテスコ)
	㊂シヨノフリーデン (トウショウルチュー=ニシマルチャイナ)
	シンクルセダ (クルセダ=キャッスル=ヤテンリュウ)
	市スーパークリーク (ノーアテンション=ナイスティ)
	抽センターシュア (サクラシングキ=トップソロン)
	市ダカールインター (クラウンドプリンス=スノンドロップ)
	市テンザンタカネ (ノノアルコ=ヒダクロス)
	トアスキー (ヤマニンスキーカ=キタノガビー)
	※ネーハイコインド (コインドシルバー=ネーハイサー)
	※ノムラダンサー (ダンサーズイメージ=タツノクイン)
	※ハイオクターブ (リアルシャダイ=ダイナメロディ)
	抽ヒデドラゴン (プロント=キノーケイン)
	市ヒミノローマン (ブレイヴェストローマン=カツリュウセイコー)
	抽ヒロノオスカー (ノーザンアンサー=ヤマトカチドキ)
	※ホワイトターキン (アンバーシャダイ=シャダイターキン)
	※マイネシャイネ (ビンゴガール=ローズハニー)
	市マイネルフリッセ (リードワンダー=ヒロオサクラ)
	マグマアロー (マルゼンスキーカ=カリルーラー)
	ミリオンハイライン (マルゼンスキーカ=タカブイミー)
	ルイジアナビット (ヴァリィフォージュ=ミキカマダ)

(計52頭)